

茨木市次世代育成支援に関するニーズ調査

結果速報（案）

（19～39歳）

平成31年（2019年）2月

茨木市

I. 調査概要

1 調査目的

現行の「茨木市次世代育成支援行動計画（第3期）」が2019年度末で終了することから、子ども・若者育成支援推進法に基づく「子ども・若者計画」を含めた、本市の子ども・若者支援に関する施策を総合的・計画的に推進するための新たな計画となる「（仮称）茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」（2020～2024年度）を策定することとしている。本調査は、新たな計画策定にあたって、本市の若者の日常生活や就労、社会参加等の状況や意見・要望などを把握することを目的に実施した。

2 調査設計

- （1）調査地域 茨木市全域
- （2）調査対象 19～39歳の男女個人
- （3）対象者数 住民基本台帳から2,000人を無作為抽出
- （4）調査方法 郵送配付及び郵送回収による郵送調査法（調査期間中に礼状兼督促はがきを送付）と、インターネット調査
- （6）調査期間 平成30年12月13日（木）～平成30年12月27日（木）

3 回収結果

配付数	回収数	回収率
2,000	677	33.9%

4 調査結果の見方

- （1）集計値は、回答不備等処理する前の暫定値であり、確定値ではない。
- （2）図中の「n」は、設問に対する回答者数のことを示す。
- （3）回答比率（％）は回答者数（n）を100％として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示している。小数点以下の端数処理の関係で、内訳の合計が計に一致しないことがある。
- （4）図表中に「MA％」「3LA％」の表示がある場合は、複数回答（すべてに○、3つまでに○等）を依頼した質問であり、回答比率（％）の計は100.0％を超える。
- （5）図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

Ⅱ. 調査結果

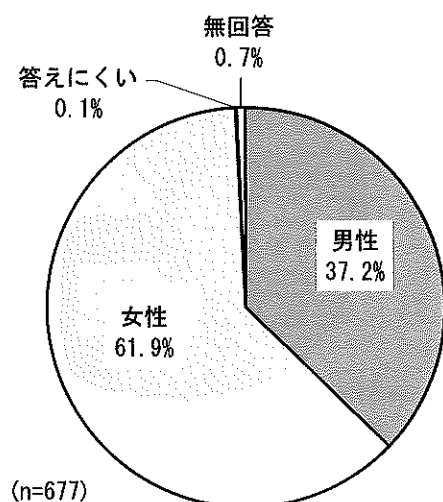
1 本人や家族に関することなどについて

(1) 性別と年齢 [問1、問2]

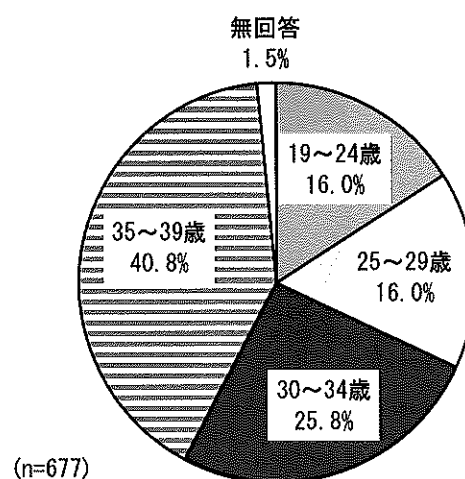
■回答者の性別は、「男性」37.2%、「女性」61.9%となっている。

■年齢は、「35～39歳」が40.8%で最も多く、次いで「30～34歳」が25.8%、「19～24歳」と「25～29歳」がそれぞれ16.0%で続いている。

□性別

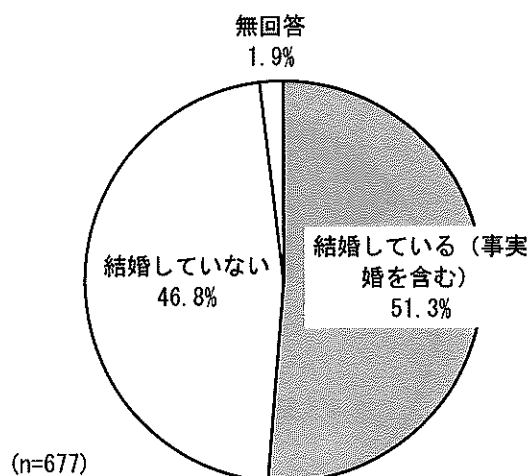


□年齢



(2) 結婚状況 [問3]

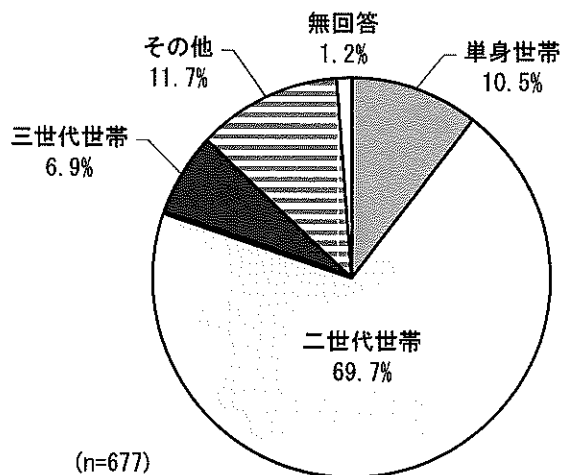
■結婚状況は、「結婚している(事実婚を含む)」が51.3%、「結婚していない」が46.8%となっている。



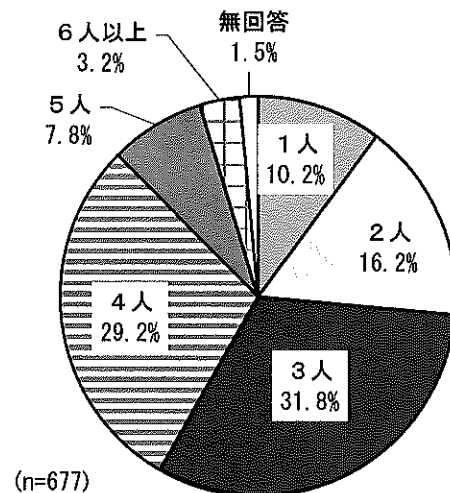
(3) 家族形態・同居家族人数 [問4・問6]

- 家族形態は、「二世世代世帯」が69.7%で最も多く、次いで「単身世帯」が10.5%、「三世世代世帯」が6.9%となっている。
- 同居家族人数は、「3人」が31.8%で最も多く、次いで「4人」が29.2%、「2人」が16.2%となっている。

□ 家族形態

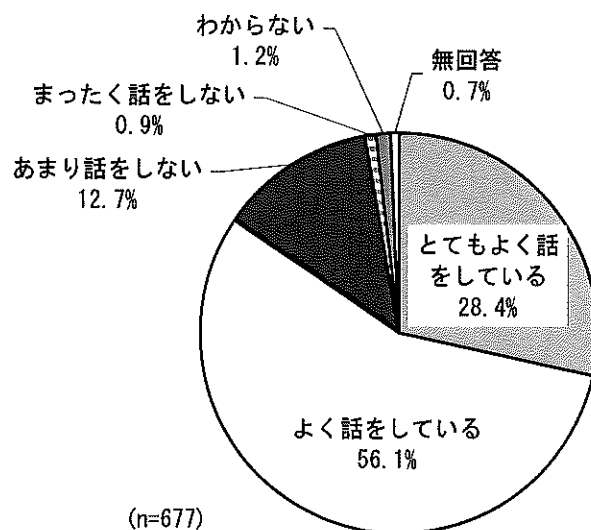


□ 同居家族人数



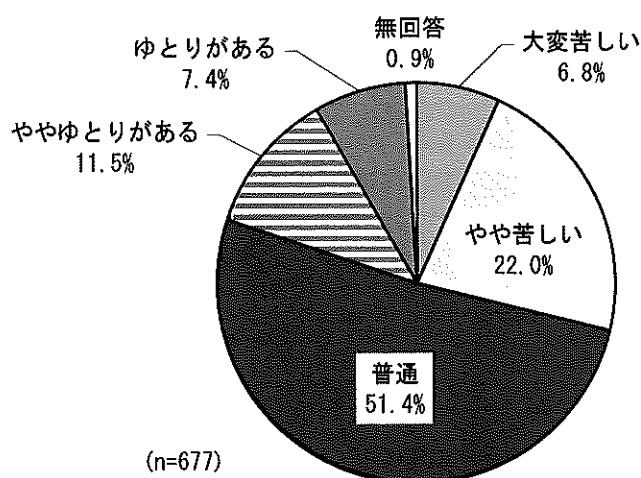
(4) 家族との会話の状況 [問5]

- 家族とのふだんの会話の状況については、「よく話をしている」が56.1%で最も多く、次いで「とてもよく話をしている」が28.4%、「あまり話をしない」が12.7%となっている。



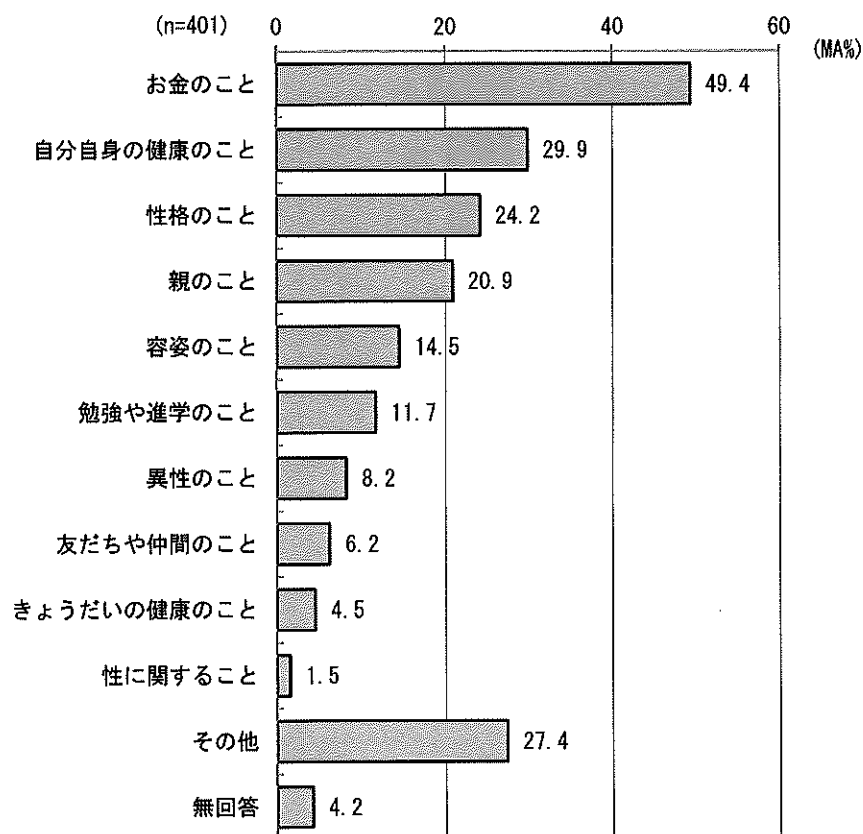
(5) 現在の暮らしの状況 [問8]

■現在の暮らしの状況については、「普通」が51.4%で最も多く、次いで「やや苦しい」が22.0%で、『苦しい』（「大変苦しい」と「やや苦しい」をあわせた割合）は28.8%となっている。



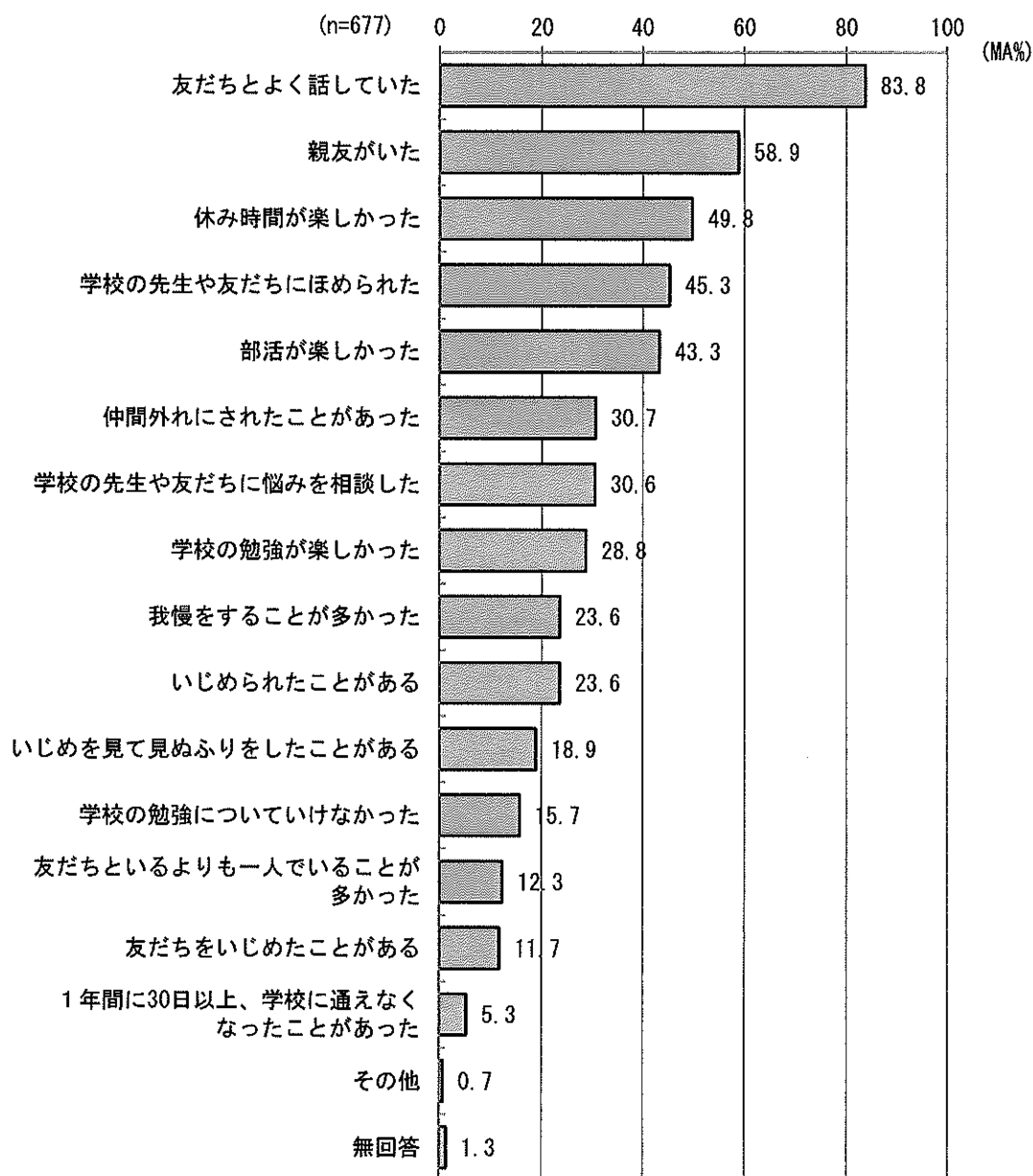
(6) 悩みや困っていること [問11]

■ふだん悩んだり困ったりしていることについては、「お金のこと」が49.4%で最も多く、次いで「自分自身の健康のこと」が29.9%、「性格のこと」が24.2%となっている。



(7) 今までに学校で経験したこと [問15]

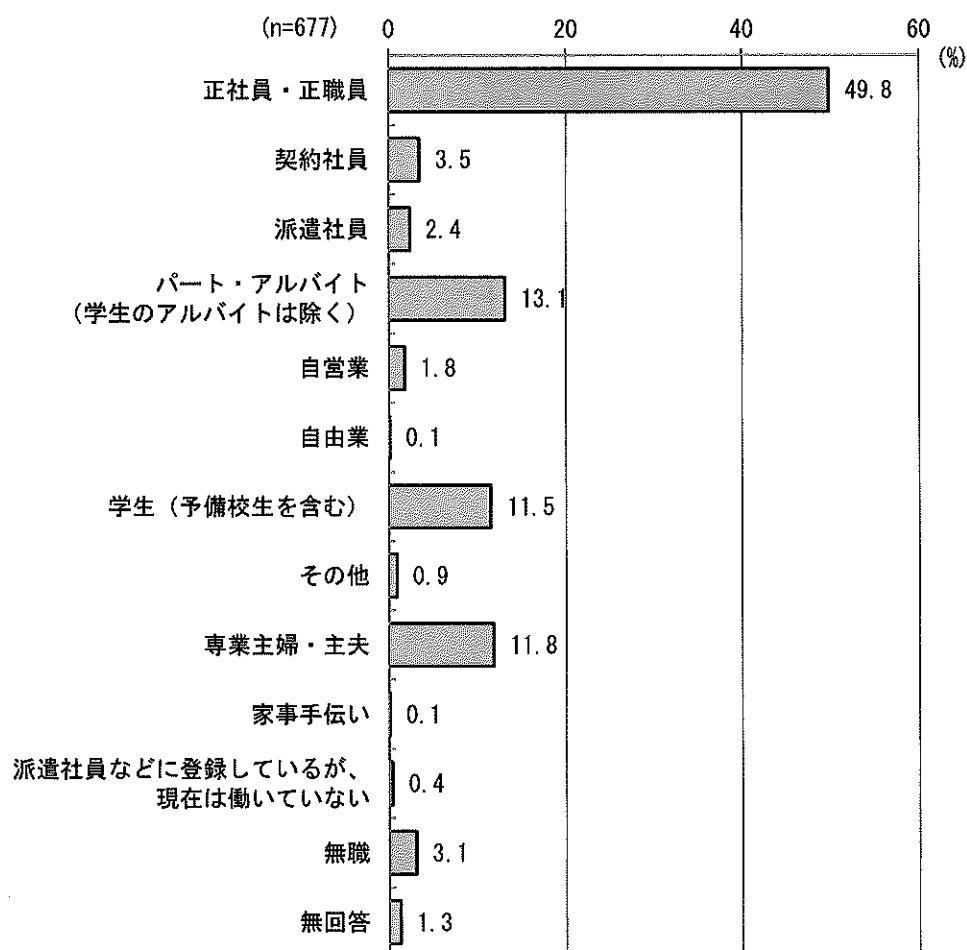
■今までに学校で経験したことについては、「友だちとよく話していた」が83.8%で最も多く、次いで「親友がいた」が58.9%、「休み時間が楽しかった」が49.8%となっている。



2 仕事について

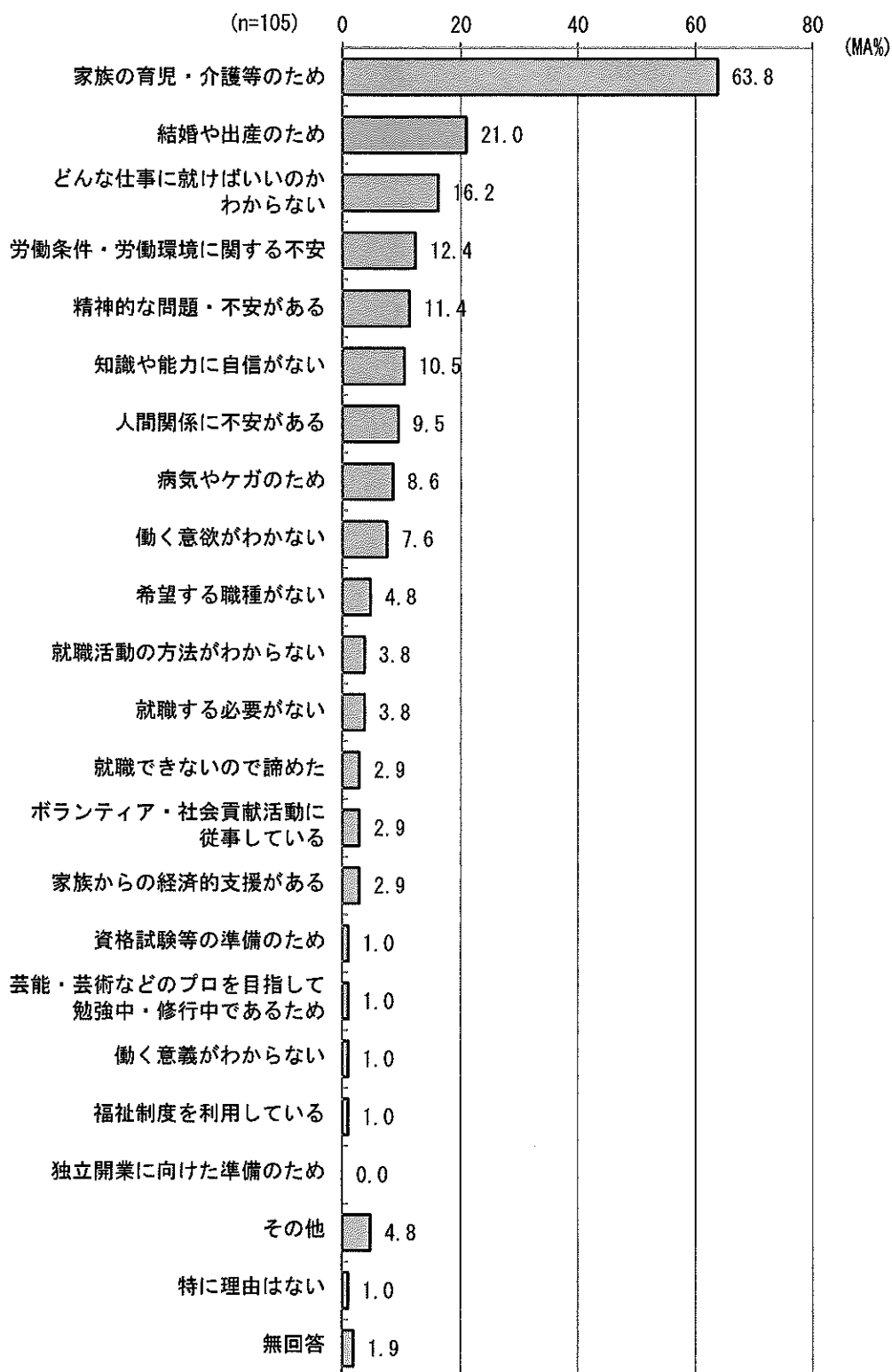
(1) 現在の職業 [問17]

■現在の職業は、「正社員・正職員」が49.8%で最も多く、次いで「パート・アルバイト（学生のアルバイトは除く）」が13.1%、「専業主婦・主夫」が11.8%、「学生（予備校生を含む）」が11.5%となっている。



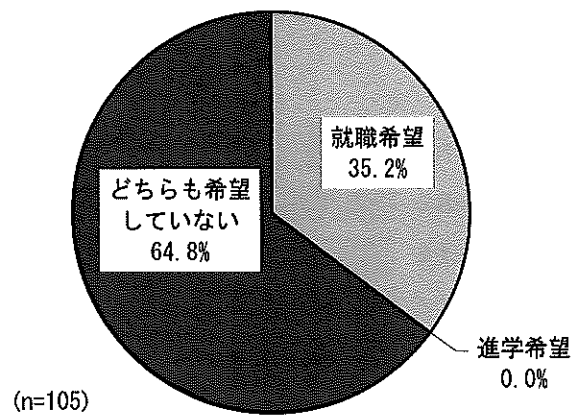
(2) 現在働いていない理由 [問18]

■ 仕事をしていない人に、現在働いていない理由についてたずねると、「家族の育児・介護等のため」が63.8%で最も多く、次いで「結婚や出産のため」が21.0%、「どんな仕事に就けばいいのかわからない」が16.2%となっている。



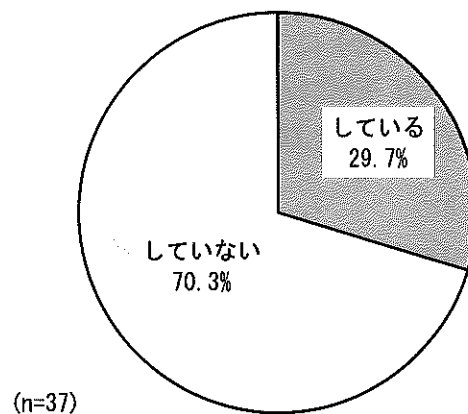
(3) 就職または進学希望の有無 [問20]

■ 仕事をしていない人に、現在、就職または進学を希望しているかについてたずねると、「就職希望」が35.2%、「どちらも希望していない」が64.8%となっている。



(4) 就職活動の状況 [問21]

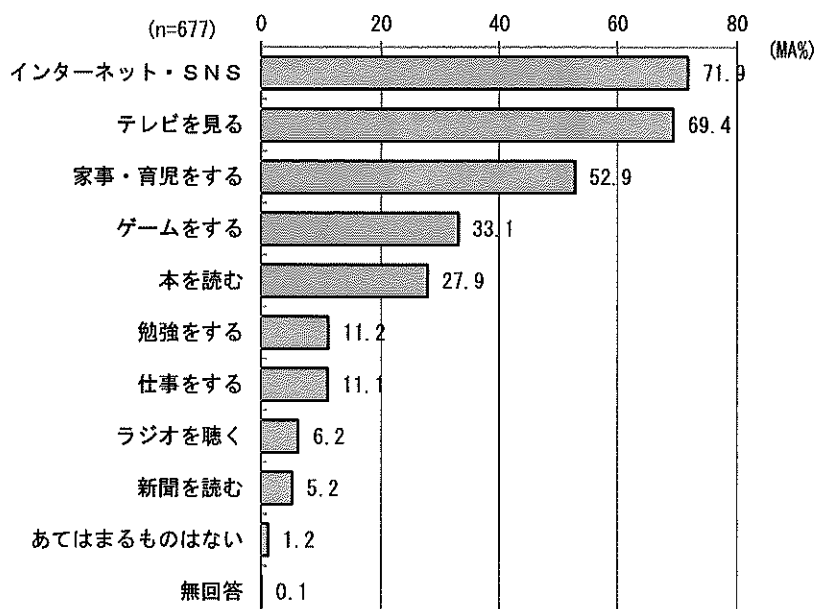
■ 就職希望と回答した人に、就職活動の状況をたずねると、「している」が29.7%、「していない」が70.3%となっている。



3 ふだんの過ごし方について

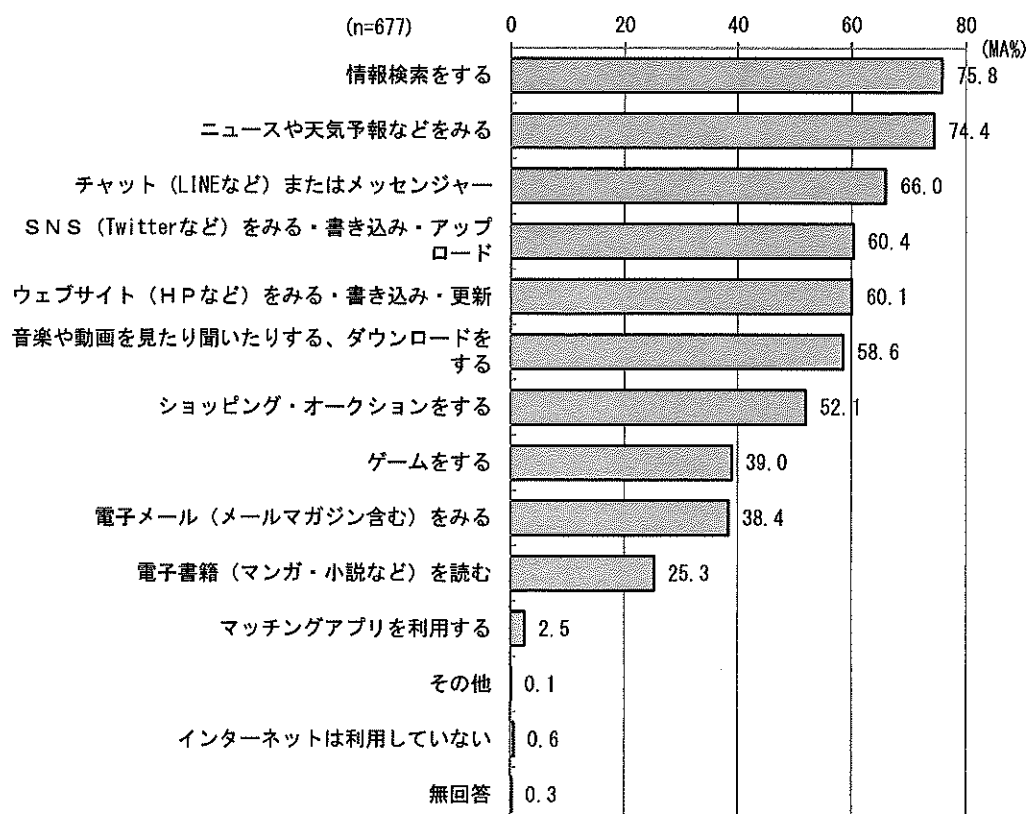
(1) 自宅でよくしていること [問23]

■ふだん自宅でよくしていることについては、「インターネット・SNS」が71.9%で最も多く、次いで「テレビを見る」が69.4%、「家事・育児をする」が52.9%となっている。



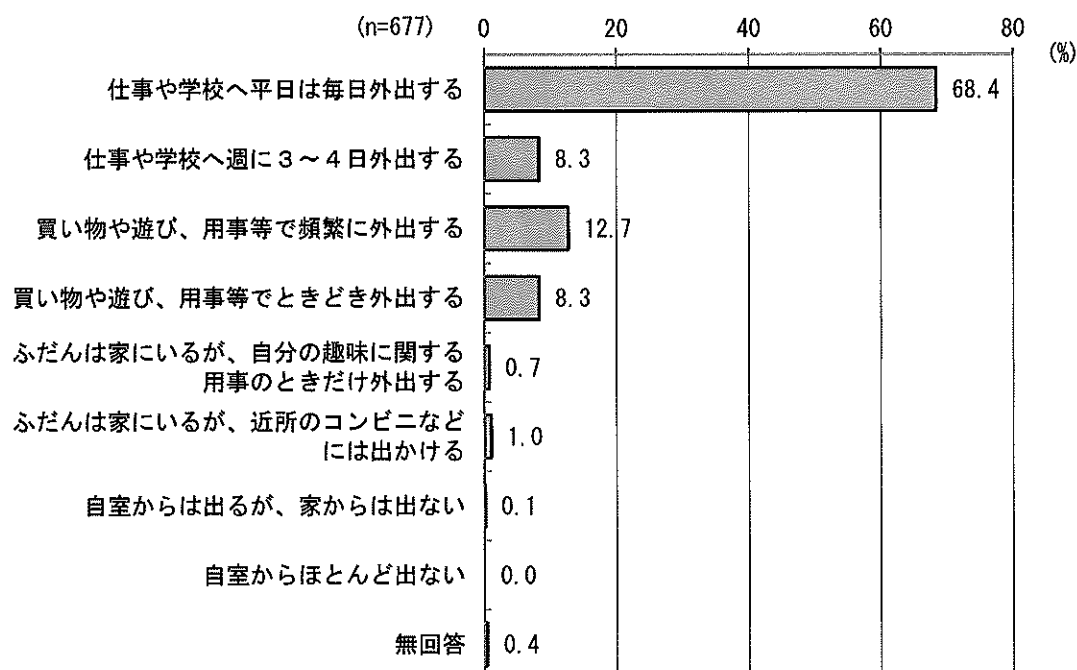
(2) インターネットの利用状況（目的） [問25]

■インターネットの利用状況（目的）については、「情報検索をする」が75.8%で最も多く、次いで「ニュースや天気予報などをみる」が74.4%、「チャット（LINEなど）またはメッセージ」が66.0%となっている。



(3) ふだんの外出の頻度 [問26]

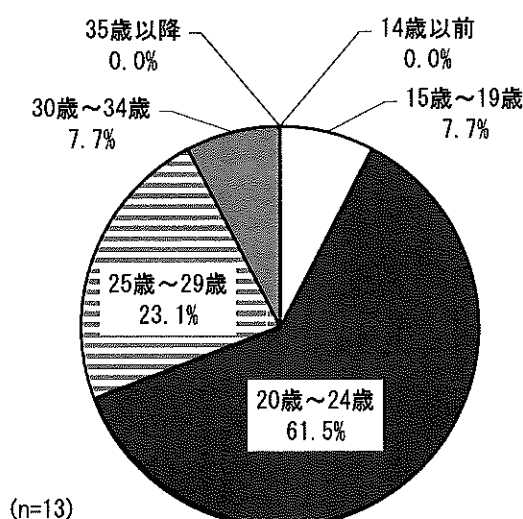
■ふだんの外出の頻度については、「仕事や学校へ平日は毎日外出する」が68.4%で最も多く、次いで「買い物や遊び、用事等で頻繁に外出する」が12.7%、「仕事や学校へ週に3～4日外出する」と「買い物や遊び、用事等でときどき外出する」がともに8.3%となっている。



4 ひきこもりの状況について

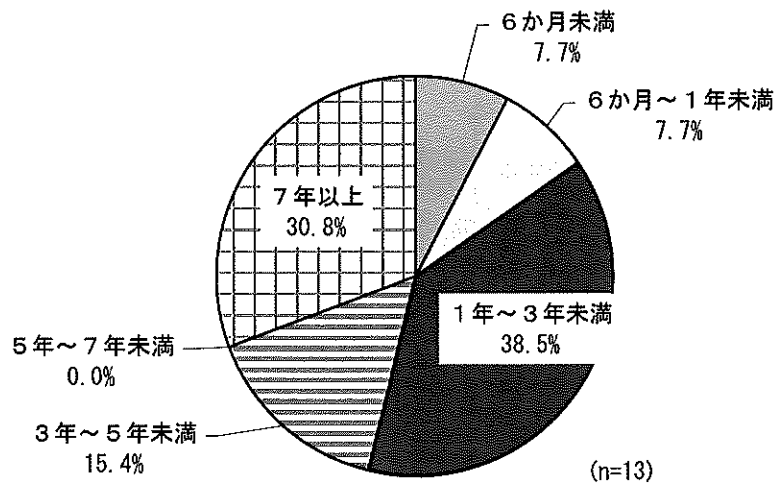
(1) ひきこもりの状態になった年齢 [問27]

■あまり出かけない、またはほとんど出ないひきこもり状態の人に、現在の状態になった年齢についてたずねると、「20歳～24歳」が61.5%（8人）で最も多く、次いで「25歳～29歳」が23.1%（3人）となっている。



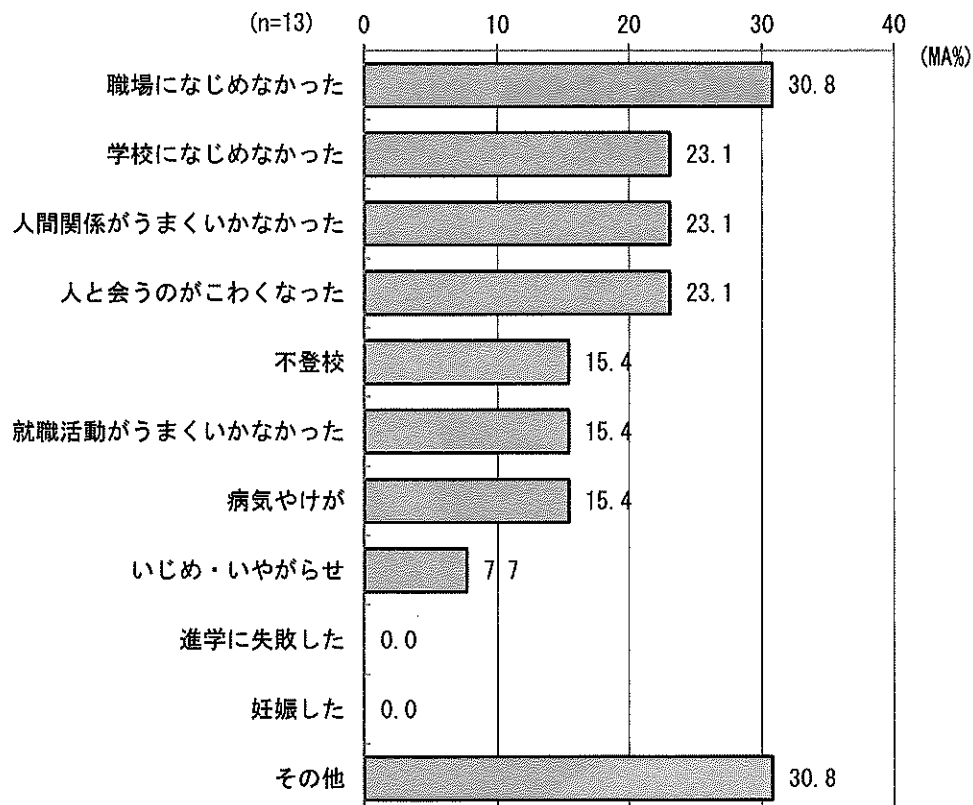
(2) ひきこもりの状態になってからの期間 [問28]

■ひきこもりの状態になってからの期間は、「1年～3年未満」が38.5%（5人）で最も多く、次いで「7年以上」が30.8%（4人）、「3年～5年未満」が15.4%（2人）となっている。



(3) ひきこもり状態になったきっかけ [問29]

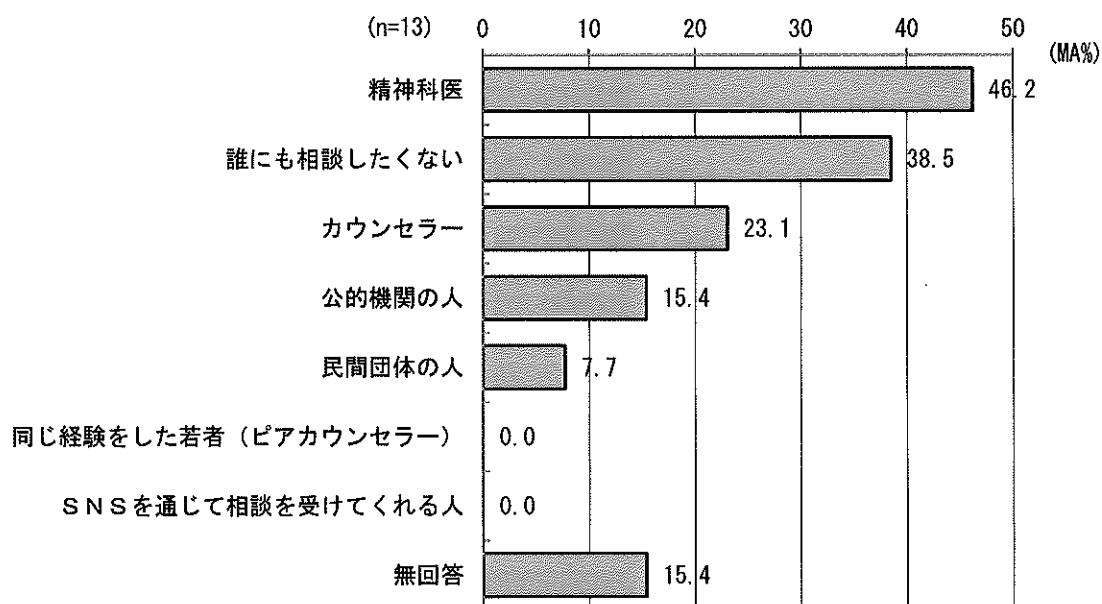
■ひきこもり状態になったきっかけについては、「職場になじめなかった」が30.8%（4人）で最も多く、次いで「学校になじめなかった」と「人間関係がうまくいかなかった」と「人と会うのがこわくなった」が23.1%（3人）となっている。



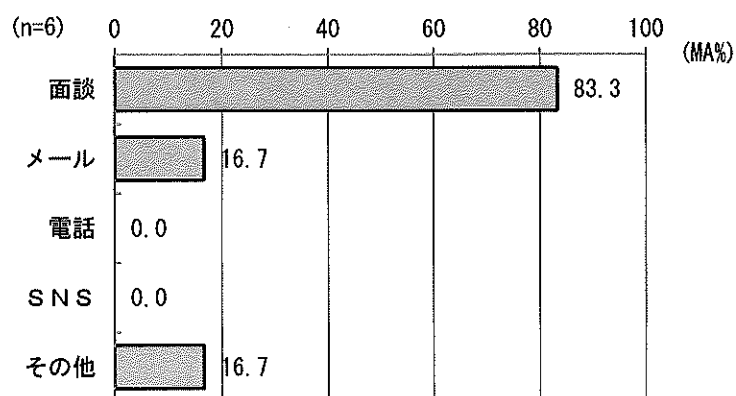
(4) ひきこもり状態について相談したい相手・方法 [問31・問32]

- ひきこもり状態について相談したい相手については、「精神科医」が46.2%（6人）で最も多く、次いで「誰にも相談したくない」が38.5%（5人）、「カウンセラー」が23.1%（4人）となっている。
- 相談したい相手がいる人に、相談方法についてたずねると、「面談」が83.3%（5人）、「メール」が16.7%（1人）となっている。

□ 相談したい相手

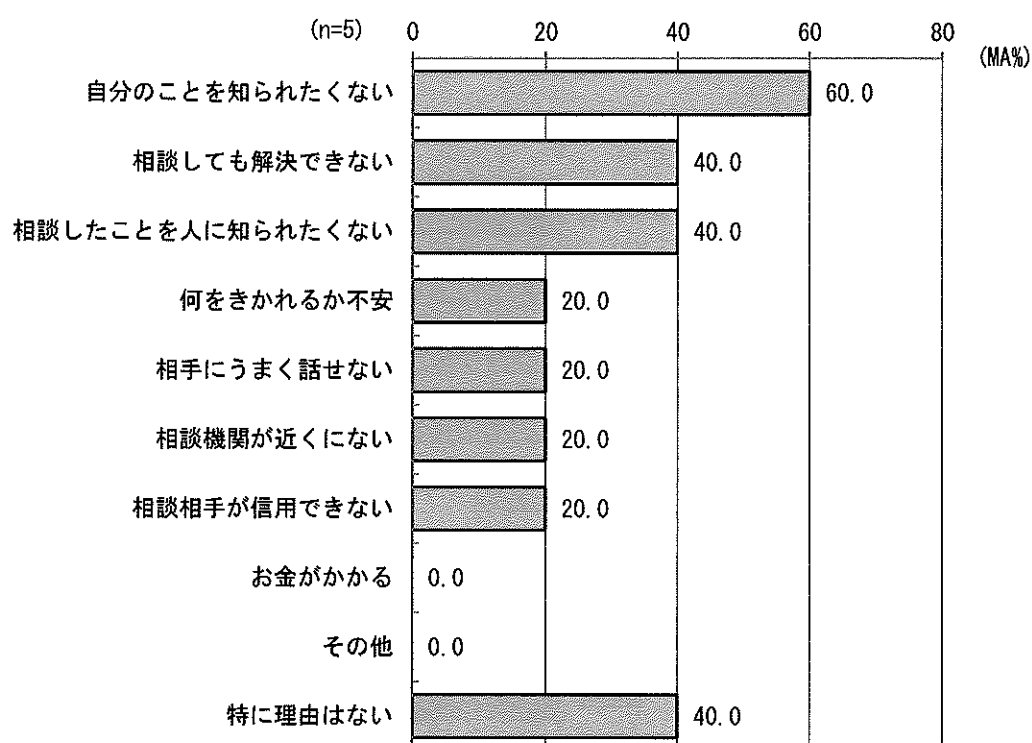


□ 相談方法



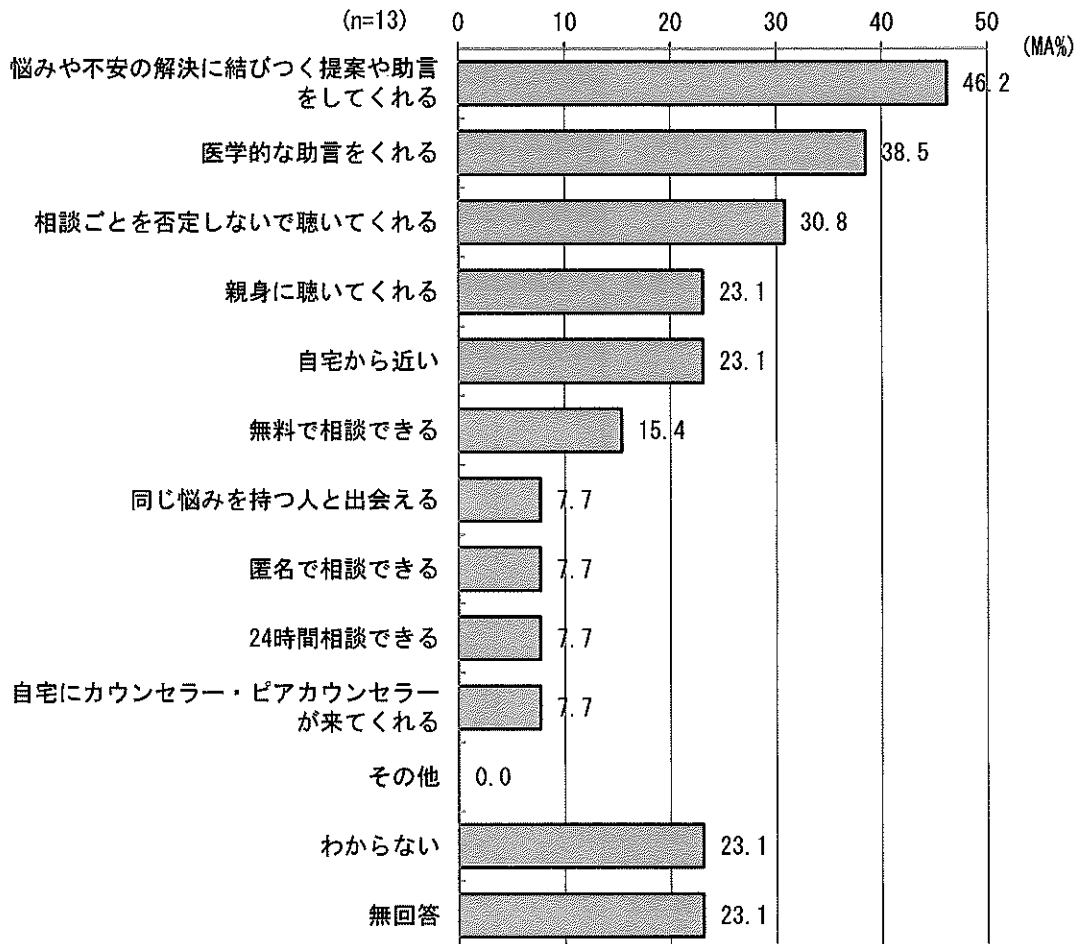
(5) 相談したくない理由 [問33]

■ 誰にも相談したくないと回答した人に、その理由についてたずねると、「自分のことを知られたくない」が60.0%（3人）が最も多く、次いで「相談しても解決できない」と「相談したことを人に知られたくない」が40.0%（2人）となっている。また、「特に理由はない」も40.0%（2人）となっている。



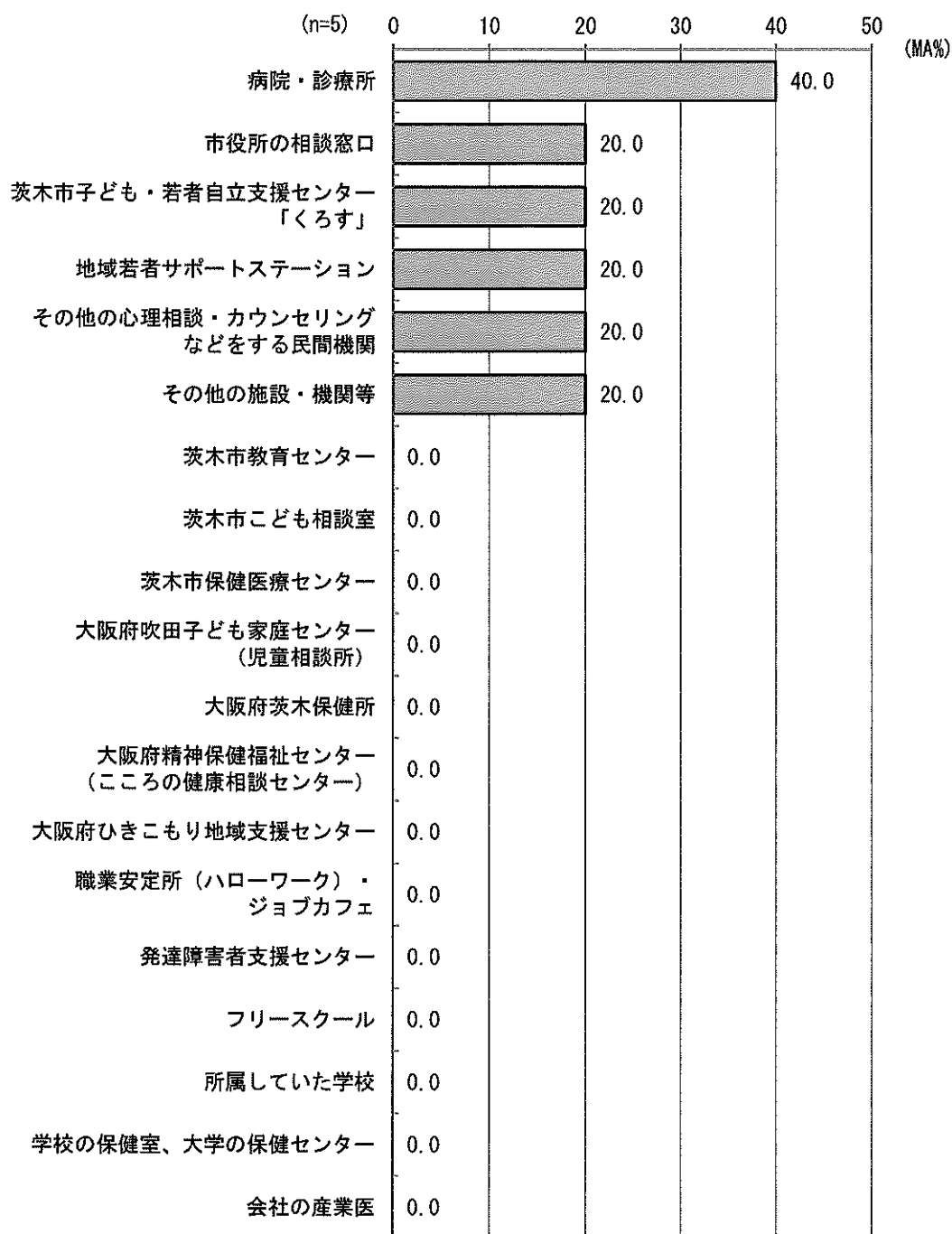
(6) 相談する場合に重視すること [問34]

■相談する場合に重視することについては、「悩みや不安の解決に結びつく提案や助言をしてくれる」が46.2%（6人）で最も多く、次いで「医学的な助言をくれる」が38.5%（5人）、「相談ごとを否定しないで聴いてくれる」が30.8%（4人）となっている。



(7) 相談したことのある機関等 [問37]

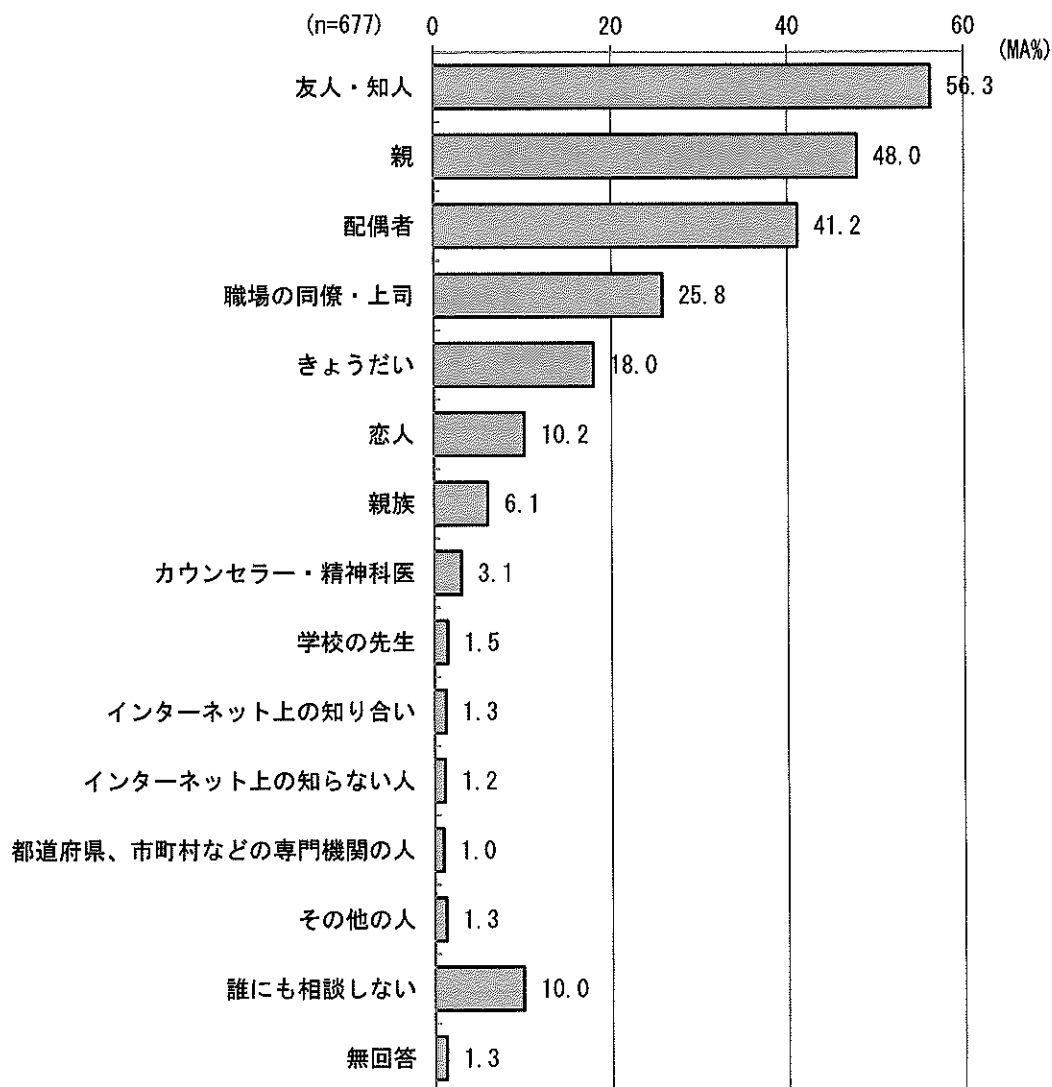
■引きこもり状態について相談したことがあると回答した人に、相談した機関についてたずねると、「病院・診療所」が40.0%（2人）で最も多くなっている。



5 悩みや相談先について

(1) 悩み事の相談先 [問44]

■ 悩んだんの悩み事の相談先については、「友人・知人」が56.3%で最も多く、次いで「親」が48.0%、「配偶者」が41.2%となっている。



(2) 子ども・若者を対象とした相談窓口や相談機関の認知状況 [問45(1)(2)(3)]

■子ども・若者を対象とした相談窓口や相談機関の認知状況については、「知っている」が最も高いのは“⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）”（83.3%）で、次いで“②こども相談室”（48.7%）、“⑮男女共生センターローズWAM”（48.3%）となっている。

■利用経験については、“⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）”（33.4%）が最も高く、次いで“⑮男女共生センターローズWAM”（6.8%）となっている。

■利用意向については、“⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）”（40.8%）が最も高く、次いで“②こども相談室”（35.0%）、“⑨就職サポートセンター”（24.5%）となっている。

